

やくそく

子どもだけで川に近づくのはとても危険！

川で遊んだり、生き物の観察をするときは、かならず
大人といっしょに出かけよう！

もしめずらしい生き物をみつけたら、そっと観察して、
かならずもとの場所に返してあげよう！

こくどうつうしょう きゅうしゅううちほうせいびきょく
国土交通省 九州地方整備局
ちくごがわかせんじむしょ かせんかんきょうか
筑後川河川事務所 河川環境課

住所：〒830-8567

福岡県久留米市高野1丁目2番1号

TEL：0942-33-9131

URL：http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/

発行日：2007年7月改訂

ちくごがわ 筑後川の

いきもの 生き物たち

のぞいてみようよ！

いきもの
めずらしい生き物のすがた

はじめに

くまもと おおいた ふくおか さが けん なが きゅう
熊本、大分、福岡、佐賀の4県を流れる九
州一の大きな川、筑後川。

わたしたちは、筑後川の流れを生活や農業、
工業に利用し、川からたくさんの恵みをう
けてくらししてきました。そして、川とと
もにくらすことで、この地域らしい
文化や景観が生まれたのです。

わたしたちのみちかにあって、ゆたかな自
然のこの筑後川は、たくさんの生き物にと
っての大切なすみかでもあります。

そんな筑後川の自然とそこにくらす生き物たち、
あなたはどれくらい知っているかな？

もくじ

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ 1ページ
- この本に登場する生き物たち・・・・・・・・ 2ページ
- 筑後川ってどんな川？・・・・・・・・ 3ページ
- めずらしい生き物たち・・・・・・・・ 5ページ
 - 魚のなかま・・・・・・・・ 5ページ
 - 底生動物(水生昆虫、エビ・カニ、貝)のなかま・・・・・・・・ 8ページ
 - 植物のなかま・・・・・・・・ 11ページ
 - 鳥のなかま・・・・・・・・ 14ページ
 - 小動物(哺乳類、カエル、カメ・ヘビ)のなかま・・・・・・・・ 17ページ
 - 陸上昆虫のなかま・・・・・・・・ 19ページ
- さくいん・・・・・・・・ 21ページ
- さいごに・・・・・・・・ 22ページ

この本に登場する生き物たち

ちくごがわ いっきゅうかせん ねん かい かわ せいぞく いきもの かん
筑後川のような一級河川では、およそ5年に1回、川に生息する生き物や環
境をしらべる「河川水辺の国勢調査」がおこなわれています。

これまでの調査で筑後川でみつかった生き物の数

● 魚のなかま	96種
● 底生動物(水生昆虫、エビ・カニ、貝)のなかま	
水生昆虫のなかま	325種
エビ・カニ、貝のなかま	86種
● 植物のなかま	896種
● 鳥のなかま	171種
● 小動物(哺乳類、カエル、カメ・ヘビ)のなかま	
哺乳類	16種
カエル・イモリのなかま	10種
カメ・ヘビ・トカゲのなかま	11種
● 陸上昆虫のなかま	2179種

調査でみつかった生き物の中には、全国や九州地方のレッドデータブックで、
絶滅が心配されている生き物もたくさんみられます。

この本では、レッドデータブックに指定されためずらしい生き物のうち、筑
後川でみられる代表的な生き物を紹介しています。

レッドデータブックってなんだろう？

レッドデータブックとは、生息する場所が開発されたり、必要以上にとられるなどしたた
めに生息する数が大きくへり、日本全国や各都道府県レベルで絶滅が心配される生き物の情
報をまとめ、このままではほろびてしまう生き物たちをより多くの人に知ってもらうために
つくられた本です。

用語せつめい 絶滅：生息する数が大きくへり、いなくなること。

筑後川ってどんな川？

川の長さはおよそ143km、九州で1番長い、九州を代表する川です。

阿蘇外輪山の源流から、たくさんの川と合流しながら筑後平野をぬけ、有明海に流れこむまで、川のようにすやそこにすむ生き物もさまざまに変化していきます。



下流の環境 筑後大堰～有明海

有明海の影響を受ける筑後大堰より下流は、潮の満ち引きによって川の深さが変化する「感潮域」となっています。川の水には海水がまじり、川ぞいにはヨシ原が



久留米市城島町付近

用語せつめい 潮の満ち引き：月の引力によって、海の高さが1日2回、きそくてきに高くなったりひくくなったりすること。
河口：川が海や湖に流れこむところ。

中流の環境 夜明ダム～筑後大堰

市街地や耕作地の中をまがりくねって流れる中流には、ところどころに砂や丸い石の河原や中洲が広がります。水ぎわには植物がしげり、河川敷にはセイタカヨシやオギの草はら、エノキや竹の林がみられます。水辺にはハグロトンボ、オギの草むらにはカヤネズミがすみ、夏になると広い中洲にコアシサシやツバメチドリが子育てにやってきます。

中流の生き物



朝倉大橋付近（福岡県）

上流の環境 夜明ダムより上流

山にかこまれた上流では、川はせまくゴツゴツした大きな石がごろがり、サワガニやタカハヤなどのきれいな水にすむ生き物やオオムラサキなどの里山の生き物がすんでいます。水ぎわには、急な流れに負けないようしっかり根をはったツルヨシ、川ぞいにはアラカシの林がみられます。



大分県日田市大山町付近

用語せつめい 中洲：川の中に砂や石がたまって島のようなところ
里山：田畑のまわりに森があるような、人が生活に利用していたむかしからの農村の自然のこと。

めずらしい生き物たち

さかな 魚のなかま 1

下中上 下：下流、中：中流、上：上流
筑後川でみられる場所を黒くぬっています。

さかな 魚のなかま 2

ヤマノカミ
カサゴ目 カジカ科 地方名：かんかんじょう

全長 約16cm

小さなトゲがあるよ！



日本では有明海に流れこむ川の感潮域だけにすむカジカのなかま。エラにトゲがあります。干潟でタイラギという貝に卵を産みます。

ワラスバ
スズキ目 ハゼ科 地方名：じんきち

全長 約30cm



日本では有明海の干潟だけにみられ、柔らかい泥に巣穴を作ります。体はウナギのように細長く、するどい歯がむき出しです。

トビハゼ
スズキ目ハゼ科 地方名：かなむつ

全長 約10cm



干潟の泥にほった巣穴にすむハゼ。潮がひくと泥の上で小さなカニなどを食べ、潮が満ちると石の上やヨシの茎で休みます。

ハゼクチ
スズキ目ハゼ科 地方名：はしくい

全長 約40cm



日本では有明海と八代海だけにすむ、日本で1番大きなハゼ(最大60cm)。大きくなるまで河口近くで過ごし海に帰ります。

エツ
ニシン目 カタクチワシ科

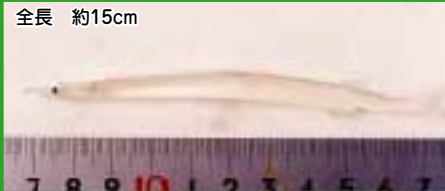
全長 約40cm



全身銀色のうすい体をした魚。筑後川の感潮域で生まれたこどもは5cmくらいに成長すると有明海の奥のあさい海にかえります。

アリアケシラウオ
サケ目シラウオ科 地方名：しらいお

全長 約15cm



日本で1番大きなシラウオ。体は透明で頭の先がとがります。日本では有明海だけに生息し、筑後川と緑川の感潮域で卵を産みます。

シモフリシマハゼ
スズキ目ハゼ科

全長 約10cm



小型のずんぐりしたハゼ。こうふんすると体の色かわります。汽水域に生息し、川底の石の下や空きカンなどに卵を産みます。

クルマサヨリ
ダツ目サヨリ科 地方名：さより

全長 約20cm



本州と九州の大きな川や湖の汽水域に生息します。下アゴの先が長くのび、くちばしのような形をしています。

アリアケヒメシラウオ
サケ目シラウオ科 地方名：しらいお

全長 約6cm



世界中でも筑後川と緑川の感潮域上流だけに生息する小さなシラウオ。産卵が確認されているのは筑後川だけです。

ムツゴロウ
スズキ目ハゼ科 地方名：むつ

全長 約20cm



日本では有明海、八代海の干潟だけに生息します。泥の中の巣穴にすみ、エサ(珪藻)をさがして泥の上を動き回ります。

スジシマドジョウ
コイ目ドジョウ科 地方名：しまどじょう

全長 約5cm



有明海に流れこむ川の中〜下流の川底の砂や泥の中にすむ小さなドジョウ。背中と体の側面には点々がスジのように並びます。

セボシタビラ
コイ目コイ科 地方名：しびんた、べんはや

全長 約6~9cm



九州北部にだけ生息するタナゴ。筑後川周辺の水路などにみられます。二枚貝に卵を産み、ふ化した後はしばらくは貝の中で成長します。

用語せつめい 珪藻：川の石の表面のヌルヌルのように、目では見えないぐらい小さな藻の仲間。

感潮域：海の潮のみちひきにあわせて川の深さが変化する区間。

用語せつめい 汽水域：川の水と海水がまじりあう区間のことで、干潟の陸に近い場所もふくまれます。

めずらしい生き物たち

魚のなかま 3

ニッポンバラタナゴ 下中上

コイ目コイ科 地方名：しびんた 支流(田手川)

全長 約5cm



産卵期前にオスがきれいなバラ色になるタナゴ。九州北部以外では外来種のタイリクバラタナゴとの交雑が進んでいます。

カゼトゲタナゴ 下中上

コイ目コイ科 地方名：しびんた、しゅぶた

全長 約5cm



九州北部にだけ生息する、体の側面に青いラインのある小さなタナゴ。筑後川周辺の水路や小川にすみ、二枚貝に卵を産みます。

スナヤツメ 下中上

ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科 地方名：めくらうなぎ

全長 約20cm



目の後ろにエラの穴が7つならぶので八目とよばれます。アゴがなく口は吸はん状です。一生のほとんどを川底の砂の中ですごします。

アリアケギバチ 下中上

ナマズ目ギキ科 地方名：ぎゅうぎゅう

全長 約25cm



九州にしか生息しない小型のナマズで、上〜中流にみられます。口元に4対のひげがあり、背びれと胸びれにはトゲがあります。

オヤニラミ 下中上

スズキ目スズキ科 地方名：よつめ、みつくりせえべ

全長 約10cm



エラぶたに目に似たようがついたスズキのなかま。なわばり意識が強く、川岸のヨシや水草の間に1匹ずつすみす。

アカザ 下中上

ナマズ目アカザ科 地方名：あかぎゅうぎゅう

全長 約10cm



4対のヒゲをもつ赤い小さなナマズ。上〜中流にすみ、昼間は石のすきまに隠れています。ヒレには刺さるといたいトゲがあります。

下中上 下：下流、中：中流、上：上流
筑後川でみられる場所を黒くぬっています。

底生動物 水生昆虫、エビ・カニ、貝のなかま **1**

ウミマイマイ 下中上

オカミミガイ目ウミマイマイ科



海にすむカタツムリのなかまで、肺で呼吸します。有明海の近くにしか生息せず、泥や砂のまじる干潟にみられます。

ヒロクチカノコガイ 下中上

オキナエビスガイ目アマオブネガイ科



川と海の水がまじる場所にすむよごれた水にも強い巻貝。河口近くの石や護岸ブロック、ヨシ原の水たまりなどに見られます。

クロヘナタリガイ 下中上

ニナ目ウミニナ科



黒いザラザラした巻貝です。汽水域にすみ、泥の多い干潟や河口のヨシ原の泥の上をゆっくり動いてエサを食べます。

アズキカワザンショウガイ 下中上

ニナ目カワザンショウガイ科



有明海に流れこむ川の河口のヨシ原にすむ、赤い小さな巻貝。ヨシの茎で休んだり、泥の上でエサを探します。

筑後川にしかない生き物？

他にはいない魚やカニや貝などのめずらしい生き物がたくさんすむ有明海。筑後川は有明海とつながっているから、干潟や長い感潮域

は、めずらしい生き物の大切なすみかや産卵場所に

なっているんだよ。

他にも、今では日本中で筑後川周辺の田主丸の水路

だけに、ヒナモロコっていう魚がいるよ。昔ながらの

土の水路がなくなって、すめる場所が少なくなってい

るんだ。ヒナモロコ里親会が頑張って守ってくれているよ。



ヒナモロコ(体長約5cm)

※これまでの河川水辺の国勢調査ではみつかっていませんが、筑後川に生息することが確認されています。

めずらしい生き物たち

いきもの
底生動物 水生昆虫、エビ・カニ、貝のなかま 2

下中上 下：下流、中：中流、上：上流
筑後川でみられる場所を黒くぬっています。

いきもの
底生動物 水生昆虫、エビ・カニ、貝のなかま 3

オカミミガイ

下中上



から たか
殻の高さ
やく 約3.0cm

若いときは茶色ですが、年とともに殻の表面がけずれ白くなります。汽水域のヨシ原のヨシの根元や泥の上にみられます。

モノアラガイ

下中上



から たか
殻の高さ
やく 約1.8cm

2本の触覚がヒゲのようにとび出た巻貝。水草が生える少しよれた川や水路などにすみ、ヘイケボタルの幼虫のエサになります。

マルタニシ

下中上



から たか
殻の高さ
やく 約6.0cm

田んぼや水路の泥や水草の上で生活します。卵から小さな貝になるまで母貝の体の中で成長します。

クルマヒラマキガイ (レンスヒラマキガイ)

下中上



から たか
殻の高さ
やく 約0.5cm

殻が茶色くピカピカした平たい巻貝。田んぼや水路によくみられ、筑後川では流れのゆるやかなヨシ原などにみられます。

ヒメモクズガニ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約1.5cm

ハサミの内がわに毛がたくさんはえた、日本では有明海の河口干潟だけにすみカニ。あしをオールのようにつかって前に泳ぎます。

ヒメケフサイソガニ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約4cm

湾の奥の河口干潟にすみカニ。ハサミの外がわにたくさん毛が生えています。有明海以外ではあまりみられません。

アリアケガニ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約1.2cm

有明海の河口近くにすみカニで、潮がひくと干潟にやってきます。背中に生えた短い毛に泥がたまり、いつも泥だらけです。

ハラグクレチゴガニ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約0.7cm

日本では有明海だけに生息し、汽水域のヨシ原にすみ小さなカニ。潮がひいた干潟でオスが両方のハサミをふってウェーピングします。

ムツハアリアケガニ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約1.5cm

六角形のでこぼこした甲羅をもつカニで、有明海以外ではあまりみられません。汽水域の干潟にあさい巣穴をほってすみま。

シオマネキ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約3.5cm

河口の泥の干潟にすみカニ。オスは片方の赤くて大きなハサミと体を上下にふって潮をまねくような動きでウェーピングします。

ハクセンシオマネキ

下中上



こうら ほぼ
甲羅の幅
やく 約2.0cm

河口の干潟にすみ、オスの片方のハサミが白くて大きなカニ。夏には干潟でオスが白い扇のようにハサミをふる姿がみられます。

ウェーピングってなんだ？

オスのカニがメスを巣穴によびよせたり、他のオスとのなわばり争いのために行うのがウェーピング。干潟ではいろいろなカニのウェーピングがみられます。

ハサミと体を上下に動かして、体をより大きくみせてるんだ！



めずらしい生き物たち

植物のなかま ①

フクド キク科



10月ごろのようす

花のさくじき	9-10月
花の色	みどり色
高さ	30~50cm

河口の潮が満ちると海水につかるような場所にまとまって生えるヨモギのなかま。葉は厚く、メロンに似た香りがします。

ヒロハマツナ アカザ科



10月ごろのようす

花のさくじき	10-11月
花の色	
高さ	10~30cm

河口近くに生える塩生植物。白銀色であつみのある葉をもち、秋にはうっすら紅葉します。果実は星の形をしています。

ウシオツメクサ ナデシコ科



4月ごろのようす

花のさくじき	9-10月
花の色	白~うすいピンク色
高さ	10~15cm

葉も茎も鳥の足のツメのように細い小さな塩生植物。河口近くにまとまって生え、初夏に白い小さな花がさきます。

ウラギク キク科



10月ごろのようす

花のさくじき	9-10月
花の色	うすむらさき色
高さ	25~55cm

海岸や河口のしめった場所にまとまって生えるキクのなかま。秋にはうすむらさき色の花がたくさんさきます。別名「ハマシオン」。

塩にまけない植物たち

植物に塩水をあげたら、塩分のせいで水を吸収できなくなって、しおれたり枯れたりするよね。でも、毎日海水につかる河口近くにも、ちゃんと植物が生えているんだよ。ここに生えるのは、とくべつな仕組みをもつことで、競争相手の少ないきびしい環境に生えるけなげな植物。このページに登場するフクド、ヒロハマツナ、ウシオツメクサなどは、吸収した塩分を体内にためたり、体の外に出したりする塩にまけない仕組みをもつ植物(塩生植物)なんだ。たえられる塩分の濃さに応じて、かたまって生えることが多いよ。



ヨシの手前に生える塩生植物

下中上 下：下流、中：中流、上：上流 筑後川でみられる場所を黒くぬっています。

植物のなかま ②

イセウキヤガラ カタクリ科



10月ごろのようす

花のさくじき	7-10月
花の色	こげ茶色
高さ	40~80cm

塩に強いカタクリのなかま。筑後川の河口には大きな群落がみられます。三角形の真直ぐな茎が束になって地面から生えます。

ハマボウ アオイ科



8月ごろのようす

花のさくじき	7-8月
花の色	クリーム色
高さ	100~200cm

河口近くのしめった場所で、枝をクモの巣のように横に広げて生える木。ハイビスカスに似たクリーム色の大きな花が夏にさきます。

ミゾコウジュ シソ科



5月ごろのようす

花のさくじき	8-10月
花の色	うすむらさき色
高さ	30~70cm

筑後川では、河川敷のしめった場所にたくさんみられます。茎は四角く、初夏にうすむらさきの小さな花を穂のようにつけます。

タコノアシ ユキノシタ科



9月ごろのようす

花のさくじき	8-10月
花の色	黄みどり色
高さ	30~80cm

名前は花がついた枝がタコの足に似ているため。水位のかわりやすい水辺に群生し、秋にはゆでダコのように赤くなります。

カワヂシャ ゴマノハグサ科



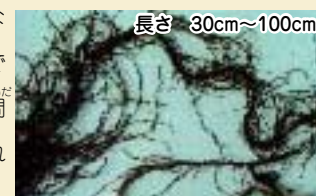
4月ごろのようす

花のさくじき	4-6月
花の色	白色
高さ	10~50cm

筑後川では中流にたくさんみられます。川の中や水ぎわに生えていて、種子が川の流れに運ばれ分布を広げます。

血筋ノリってなんだ？

血筋って血管のこと！チスジノリは川底に生えるテングサのなかま。体は赤紫色の血管みたいなほそい枝でできています。九州にある大きな川の中流で冬～春の間だけみられます。



長さ 30cm~100cm

セイタカヨシ
イネ科

下中上



花のさくじき	8-10月
花の色	こげ茶色
高さ	200~400cm

5月ごろのようす

中流の河川敷一面に広がり、秋になるとホウキみたいな穂が風にそよぎます。ヨシより大きいから背高ヨシとよばれます。

うまくみわけられるかな？

筑後川の下流にそって続く広いヨシ原、そのなかで河口だけにヨシによく似たアイアシという植物が生えているよ。まざって生えるアイアシとヨシ、それぞれのとくちょうをヒントに、うまくみわけられるかな？

筑後川には3しゅるいのヨシ（下～中流のヨシ、中流の陸地のセイタカヨシ、中～上流のツルヨシ）が生えているよ！



【アイアシ】

葉の先はたれず、くきは中身がつまっている。夏にススキみたいな穂をだす。



【ヨシ】

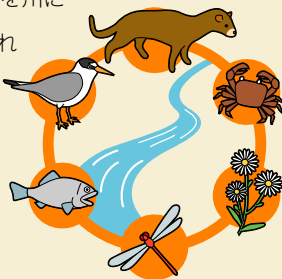
葉の先がたれることが多く、くきはストローみたいに穴あき。夏～秋にホウキみたいな穂をだす。

つながりあって、生きている

「外来種」って知ってる？ ペットや園芸植物のように人によって外国や日本の別の場所からもちこまれた生き物のことだよ。元々いた生き物を食べたり、すみかやエサを横取りする繁殖力の強い外来種のせいで、生き物の世界（生態系）

のバランスがかわりつつあるんだ。この外来種と同じように、みんなが「環境をよくしよう」と思ってしまったことが、自然の生き物のバランスをくずしてしまうこともあるんだよ。例えば、河川敷一面に外国の花を植えたり、長生きで何でも食べるコイを川に放流したら、川の生き物のつながりはどうなるかな？ もちこまれた生き物のせいでバランスがくずれて元々いた多くの生き物が

いなくなってしまうこともあるんだ。水辺と陸地がつながる川は、たくさんの生き物がつながりあってくらす大切な場所だよ。別の生き物をもちこむことで一度くずれたつながりは、元どりにするのがとてもむずかしいんだ。



用語せつめい 生態系：いろいろな生き物どうしのふくざつつながり合い。

繁殖力：子孫をのこしてふえてゆく力。

クロツラヘラサギ
コウノトリ目サギ科

下中上



大きさをくらべ	カラスより大きい
渡りの区分	冬鳥

しゃもじのようなくちばしを左右にふって干潟で魚やエビを探します。世界でも数の少ない鳥で、少数が九州で冬をこします。

ツクシガモ
カモ目カモ科

下中上



大きさをくらべ	カラスより大きい
渡りの区分	冬鳥

冬に有明海の干潟にたくさん飛んでくるから筑紫ガモとよばれます。泥の上を歩いたり水面で逆立ちしながら貝やカニを探します。

セイタカシギ
チドリ目セイタカシギ科

下中上



大きさをくらべ	ハトくらい
渡りの区分	旅鳥または留鳥

ピンクの長いあしが特徴のシギ。春と秋の渡りの頃にみられるめずらしい鳥でしたが、少しづつふえ、九州で冬をこすものもいます。

シロチドリ
チドリ目チドリ科

下中上



大きさをくらべ	スズメよりすこし大きい
渡りの区分	留鳥

干潟でよくみるチドリの中では一番色がうすい。干潟や河原の砂の上を走ったり止まったりジグザグに動いてゴカイなどを探します。

鳥の渡りってなんだろう？

筑後川には、季節ごとにいろいろな渡り鳥がやってきます。たくさんの渡り鳥が、豊富なエサを求めて、春になると子育てしやすい北方の繁殖地、秋になるとあたたかい南方の越冬地を目指し、海を越えた何千キロもの旅（渡り）をくりかえしているんですよ。

<渡りの区分(筑後川でみられる季節)>

留鳥：渡りはしないで、一年同じ地域で子育てや越冬をする（1年中）

夏鳥：南方の越冬地で冬をすごし、春に日本にやってきて子育てをする（夏）

冬鳥：夏の間に北方の繁殖地で子育てをし、秋に日本にやってきて冬をこす（冬）

旅鳥：春と秋の渡りのとちゅうに日本で休けいする鳥（春と秋）

ホウロクシギ
チドリ目シギ科

下中上



大ききくらべ
カラスくらい

渡りの区分
旅鳥

下に曲がった長いクチバシをもつシギ。春と秋の渡りの途中に干潟にやってきて、長いクチバシでカニを食べます。

カンムリカイツブリ
カイツブリ目カイツブリ科

下中上



大ききくらべ
カラスくらい

渡りの区分
冬鳥

中国やロシアで子育てをして冬になると日本の海や河口、大きな池にやってきます。水にもぐって魚やエビなどをつかまえます。

ミサゴ
タカ目タカ科

下中上



大ききくらべ
カラスくらい

渡りの区分
留鳥

つばさが細長くおなかや頭が白いタカ。魚が大好きで、海や川のそばで捕まえた魚をつかんで飛ぶ姿を見かけます。

オオヨシキリ
スズメ目ウグイス科

下中上



大ききくらべ
スズメよりすこし大きい

渡りの区分
夏鳥

夏に河原などのヨシ原にやって来ます。オスはヨシの茎や木にとまって大きな声でギョギョシ、ギョギョシと鳴きます。

コアジサシ
チドリ目カモメ科

下中上



大ききくらべ
ハトくらい

渡りの区分
夏鳥

夏に日本にやって来て、筑後川の砂浜や河川敷で繁殖します。空中でねらいを定め、泳いでいる魚めがけてダイビングします。

ツバメチドリ
チドリ目ツバメチドリ科

下中上



大ききくらべ
ムクドリくらい

渡りの区分
夏鳥または旅鳥

尾の羽がツバメのように2つに分かれています。とてもめずらしい鳥ですが、筑後川の中州では集団で繁殖しています。

ササゴイ
コウノトリ目サギ科

下中上



大ききくらべ
カラスくらい

渡りの区分
夏鳥

夏に日本にやってくる、首からおなか灰色のサギ。川の中でじっと動かさず魚を待ちかて、すばやくつかまえます。

オシドリ
カモ目カモ科

下中上



大ききくらべ
カラスよりすこし小さい

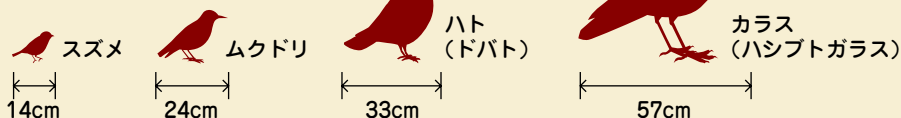
渡りの区分
冬鳥または留鳥

冬にダムなどにやってくるカモ。大好物のドングリを丸のみにします。オスはオレンジ色のイチヨウ形の羽が背中に立っています。

鳥を見分けるモノサシ

鳥を見分けるときポイントになるのが、体の大きさや色、あしやくばしの長さや形です。見分けるときには、まず「ムクドリより大きくてハトより小さい」というように、ふだんよく目にする鳥をモノサシ代わりにして、大体の大きさをつかみます。さあ、あなたもモノサシになる鳥のすがたを覚えて、筑後川でバードウォッチングにチャレンジしてみませんか？

<モノサシになる鳥たち>



鳥たちの知恵くらべ

石や砂がたまってできる中州や河原は、川が氾濫することでできる特別な環境。筑後川の中流にも大きな中州がみられます。石や砂ばかりで草もほとんど生えないこの場所で子育てをするのが、イカルチドリ、ツバメチドリ、コアジサシなどの鳥。どれも石や砂によく似た地味な色をしています。大きな動物が近づきにくく、虫や魚が豊富な中州は絶好の子育ての場なのですが、見晴らしがいいので上空からタカのなかまに狙われます。石や砂のような色で景色にとかむことで、タカの目をうまくごまかしているのです。



トノサマガエル
カエル目アカガエル科

下中上



体長
オス 6~7.5cm
メス 7~8cm

田んぼや河川敷の池などの水辺にすむカエル。身近なカエルでしたが、このごろは数が減っています。

ニホンアカガエル
カエル目アマガエル科

下中上



体長
オス 4~5cm
メス 5~7cm

水辺のそばの草むらや林にすむカエル。早春に水田やあさい水たまりに産卵します。筑後川では上流の林にみられます。

ヤマアカガエル
カエル目アカガエル科

下中上



体長
オス 8cm
メス 6cm以下

山地の林にすむカエル。早春に近くの田んぼや湿地で産卵します。目の後ろにのびる線が背中の方にまがります。

カジカガエル
カエル目オオガエル科

下中上



体長
オス 3.5~4cm
メス 5~7cm

山の溪流にすむカエル。繁殖期になるとオスが鈴のようなきれいな声でメスを呼びます。ゆるい流れの石のすきまに産卵します。

スッポン
カメ目スッポン科

下中上



かみつき注意!

甲羅の長さ
20~35cm

口の先のとがった、甲羅がやわらかいひふでおおわれたカメ。川の中流や池などにすみ、泥にもぐってほとんど水中から出てきません。

クサガメ
カメ目イシガメ科

下中上



甲羅の長さ
10~25cm

平地のため池や河川、田んぼ、用水路などにふつうにみられるカメ。甲羅に3つのうねがあります。よくにたイシガメは山に多い。

カヤネズミ
ネズミ目ネズミ科

下中上



頭胴長
(尾の長さ)
5~8cm
(6.1~8.3cm)

日本で1番小さなネズミ。筑後川では中流の河川敷のオギの草原にたくさんすみ、まわりの葉で上手に丸い巣をあんで子育てします。

ハタネズミ
ネズミ目ネズミ科

下中上



頭胴長
(尾の長さ)
9.5~13.6cm
(2.9~5cm)

平地から山地の畑や河川敷の草はらなどにすみ、尾がみじかくずんぐりした体で、地面に巣穴をほって生活します。

キツネ
ネコ目イヌ科

下中上



頭胴長
(尾の長さ)
60~75cm
(40cm)

草地と田畑、森林がまじる場所にすみ、子育てする間だけ家族で生活します。小動物や果物も食べる雑食性です。

イタチ
ネコ目イタチ科

下中上



頭胴長
(尾の長さ)
オス 27~37cm
(12~16cm)
メス 16~25cm
(7~9cm)

山地の川ぞいにすみ、鳥やカエルなどを食べる日本のイタチ。チョウセンイタチに追いやられ平地でみることは少なくなりました。

※このページに登場する「クサガメ」と「キツネ」は、レッドデータに指定された生き物ではありませんが、筑後川ではよくみられる生き物として紹介しています。

安全なわが家をもとめて

川ぞいに広がる背の高い草むらの中は、人や大きな動物が近づきにくく、弱い生き物にとって、安心して子育てのできる環境です。筑後川の下流に広がるヨシ原や中流の河川敷のオギやススキのしげみの中では、オオヨシキリやカヤネズミなどの小さな動物が、天敵からかくれるように巣を作り子育てをしています。そっとしげみをのぞいたら、草で編んだ丸い巣で子育てをするオオヨシキリやカヤネズミに出会えるかもしれませんね。



オギの草原

めずらしい生き物たち

陸上昆虫のなかま 1

下中上 下：下流、中：中流、上：上流
筑後川でみられる場所を黒くぬっています。

陸上昆虫のなかま 2

ハイロボクトウ

チョウ目ボクトウガ科



下中上

みられる
時期

6～7月
(成虫)

ヨシ原にすむ、灰色っぽい茶色の地味なガで、
幼虫はヨシの茎を食べます。夜行性で、夜の
電灯の下でみることができます。

ツマグロキチョウ

チョウ目シロチョウ科



下中上

みられる
時期

ほぼ1年中
(冬はみつけ
るのはむず
かしい)

河原などでみられるキチョウに似た黄色いチ
ョウ。身近なチョウでしたが、幼虫の食草の
カワラケツメイとともに数がへっています。

トゲナベバタムシ

カメムシ目ナベバタムシ科



下中上

みられる
時期

1年中

水のきれいな中流の川底の砂にひそむ水生の
カメムシのなかま。体の表面の細かな毛に水
中で呼吸できる仕組みがあります。

ジュウサンホシテントウ

コウチュウ目テントウムシ科



下中上

みられる
時期

4月～

河口などのヨシ原にみられる平たいテントウ
ムシ。ヨシの茎と葉のすきまにかくれて、ヨ
シについたアブラムシを食べます。

オオアメンボ

カメムシ目アメンボ科



下中上

みられる
時期

4～10月

体長約2cmの日本最大のアメンボ。ほかのア
メンボにくらべてあしがとても長い。林にか
こまれた池や流れの少ない小川にすみす。

ワスレナグモ

クモ目ジグモ科



下中上

みられる
時期

寺社の境内や畑のかわいた地面に深さ15cm
位の巣穴をほる地中性のクモ。夜に巣穴から
前足を出し小さな昆虫をとらえます。

ベニイトトンボ

トンボ目イトトンボ科



下中上

みられる
時期

5～10月
(成虫)

オスは全身が赤い大型のイトトンボ。ガマな
どの水生植物がしげるため池などにすみ、筑
後川では中流のワンドにみられます。

ゲンバイトンボ

トンボ目モノサシトンボ科



下中上

みられる
時期

5～8月
(成虫)

オスの中あしと後ろあしの先がすもうの軍配
のように広がったイトトンボ。植物のしげっ
た中流や流れのゆるい水路にみられます。

キベリマメゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科



下中上

みられる
時期

3～11月

体長7mm位の小さなゲンゴロウ。中流のよど
みの石や水草などにかくれ、時々水面におし
りを出し、はねとおなかの間に空気をためます。

シロヘリツチカメムシ

カメムシ目ツチカメムシ科



下中上

みられる
時期

3月～

河原などの日当たりのよい草地に住むカメム
シ。ストローのような口で河原に生えるカナ
ビキソウという植物の汁をすいます。

ヒメキマダラセセリ

チョウ目セセリチョウ科



下中上

みられる
時期

5～9月
(成虫)

オレンジ色のもようがきれいなチョウ。山地
の少ししめった草原にみられます。幼虫はイ
ネ科やカタクリグサ科の草を食べます。

オオムラサキ

チョウ目タテハチョウ科



下中上

みられる
時期

6～8月
(成虫)

日本の国蝶。幼虫はエノキなどの葉を食べ、
成虫はクヌギなどの樹液に集まります。里山
の環境を代表するチョウです。

用語せつめい ワンド：河川敷にできた池のような入り江、川のよどみや水たまりのこと。

国蝶：日本の国を代表するチョウ。

さくいん

【魚のなかま】

アカザ	P7	スジシマドジョウ こがしめてんこがた 小型種点小型	P6
アリアケギバチ	P7	スナヤツメ	P7
アリアケシラウオ	P5	セボシタビラ	P6
アリアケヒメシラウオ	P5	トビハゼ	P6
エツ	P5	ニッポンバラタナゴ	P7
オヤニラミ	P7	ハゼクチ	P6
カゼトゲタナゴ	P7	ムツゴロウ	P5
クルマメサヨリ	P6	ヤmanoカミ	P5
シモフリシマハゼ	P6	ワラスボ	P5

【底生動物のなかま】

ー貝のなかまー

アズキカワザンショウガイ	P8	ーエビ・カニのなかまー	
ウミマイマイ	P8	アリアケガニ	P10
オカミミガイ	P9	シオマネキ	P10
クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ)	P9	ハクセンシオマネキ	P10
クロヘナタリガイ	P8	ハラグクレチゴガニ	P10
ヒロクチカノコガイ	P8	ヒメケフサイソガニ	P9
マルタニシ	P9	ヒメモクスガニ	P9
モノアラガイ	P9	ムツハアリアケガニ	P10

【植物のなかま】

イセウキヤガラ	P12	チスジノリ	P12
ウシオツメクサ	P11	ハマボウ	P12
ウラギク	P11	ヒロハマツナ	P11
カワヂシャ	P12	フクド	P11
セイタカヨシ	P13	ミゾコウジュ	P12
タコノアシ	P12		

【鳥のなかま】

オオヨシキリ	P15	シロチドリ	P14
オシドリ	P16	セイタカシギ	P14
カンムリカイツブリ	P15	ツクシガモ	P14
クロツヘラサギ	P14	ツバメチドリ	P14
コアシサシ	P16	ホウロクシギ	P15
ササゴイ	P16	ミサゴ	P15

【小動物のなかま】

ーカエルのなかまー

ニホンアカガエル	P17	ーカメ・ヘビのなかまー	
ヤマアカガエル	P17	クサガメ	P17
トノサマガエル	P17	スッポン	P17
ヤマアカガエル	P17		

【小動物のなかま】

ー哺乳類ー

イタチ	P18
カヤネズミ	P18
キツネ	P18
ハタネズミ	P18

【陸上昆虫のなかま】

オオアメンボ	P19	ツマグロキチョウ	P19
オオムラサキ	P20	トゲナベブタムシ	P19
キペリマメゲンゴロウ	P20	ハイロボクトウ	P19
ガンバイトンボ	P20	ヒメキマダラセセリ	P20
ジュウサンホシテントウ	P19	ベニイトンボ	P19
シロヘリツチカメムシ	P20	ワスレナグモ	P19

さいごに

みんなは、この本に登場するめずらしい生き物を筑後川でみたことありますか？

これらのめずらしい生き物は、筑後川にのこされた自然の中で、ほかのたぐさんの生き物とつながりあって生きています。だから、それぞれをとりまく環境が変化したり、生き物どうしのつながりがくずれると、あっという間にいなくなるかもしれません。もちろん、今はみちかな生き物だって、将来はめずらしい生き物になってしまうこともあるかもしれませんよ。どんな生き物も、成長してこどもを産める環境、エサになる植物や動物のすむ環境がまわりになれば、生きていくことはできないのですから。

これからみんなにお願いしたいのは、この本に登場するめずらしい生き物だけでなく、いろんな生き物がつながりあってすむ筑後川の環境を大切にしていこうことです。

みんなが知らないおもしろいことや不思議なことがまだまだたくさんある筑後川の生き物や自然にもっとくわしくなろう！